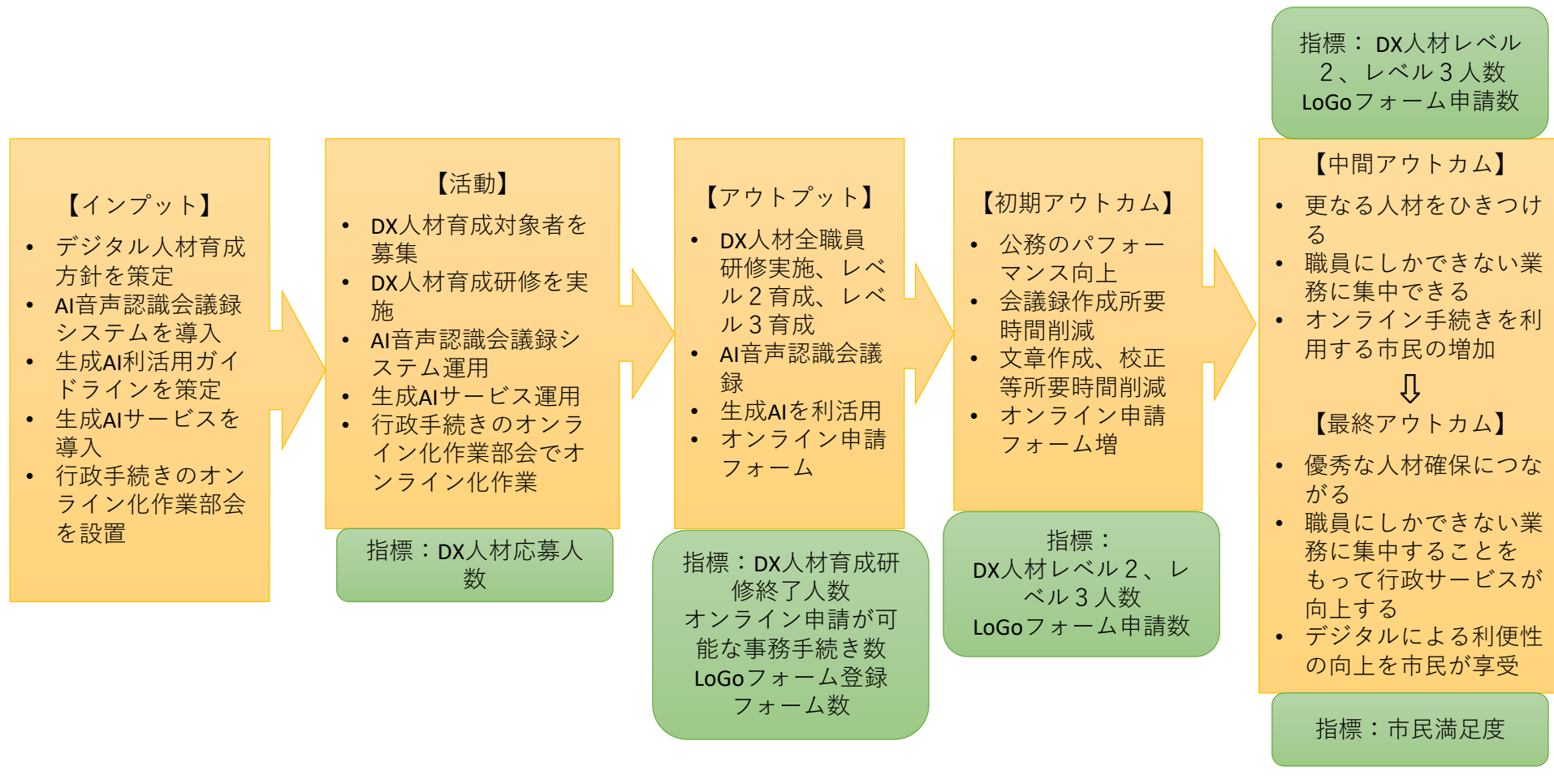


【R 6 年度】重点目標の取組・概要（ICTを活用した行政DXの推進及び行政手続きのICT化の促進（行政DX推進）〔行政DX推進事業〕）

担当課（内線）	I T 推進課（2362）	個別目標の方向性	未来志向の都市経営
重点目標	地域課題を解決する仕組みづくりの実現	行政の役割	市及び公営企業の経営の効率性を確保する
現状と課題		課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）	
今後の労働力の供給制約の中、地方自治体が住民生活に不可欠な行政サービスを提供し続けるため、職員が企画立案業務や住民への直接的なサービス提供など職員でなければならない業務に注力できるよう行政DXを推進する必要がある。		【中期的(4～5年後)にめざす成果】 職員をデジタル人材として育成していくことで、公務のパフォーマンスが向上し、更なる人材をひきつけ優秀な人材確保につながる好循環を図る。 AIにできることはAIに任せ、職員にしかできない業務に時間を使うことをもって行政サービス向上を図る。 各種手続きをオンラインからできるように取り組み、デジタル化による利便性の向上を市民が享受できることを目指す。	
R 6 年度の事業費（内訳）		【成果に向けての各年度の進め方】 (R 6) デジタル人材育成方針を策定し、レベル2の育成を開始する。 A I 音声認識会議録システム、生成AIサービスを導入し、作業所要時間の削減を図る。研修・講座・イベント等の申込オンライン化を100%めざす。 (R 7以降) レベル2の育成に加えてレベル3の育成を進める。	
①DX人材育成 3,300千円 委託料 3,300,000円 ②AI音声認識会議録システム導入 3,082千円 電算機器・システム使用料 1,790,250円 庁用器具費 1,291,400円 ③生成AI（ChatGPT）サービス導入 1,660千円 電算機器・システム使用料 1,659,900円 ④LoGoフォームのデジタル窓口オプション導入 電算機器・システム使用料 2,498千円 LoGoフォーム利用料 1,879,680円 デジタル窓口オプション利用料 617,760円		【R 6 年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】 DX人材育成レベル1研修全職員、レベル2研修100名、管理職研修を実施する。生成AIサービスの利活用ガイドラインを作成し、注意事項と利活用補法を周知する、LoGoフォームデジタル窓口オプションを導入し、作業部会を設置し申込等のオンライン化を推進する。	
R 7 年度以降の想定事業費（ランニング経費）		取組の進捗・成果を測る指標	成果・指標が未達成の場合の取扱い
・ R 7 ①DX人材育成 3,300千円 ②AI音声認識会議録システム 2,211千円 ③生成AI（ChatGPT）サービス 1,584千円 ④LoGoフォーム 2,567千円 ・ R 8 ①DX人材育成 1,650千円 ②AI音声認識会議録システム 2,211千円 ③生成AI（ChatGPT）サービス 1,584千円 ④LoGoフォーム 2,567千円 ・ R 9 8,102千円		・ DX推進人材 0名→レベル2修了者100名（2024年） ・ オンライン申請が可能な事務手続き数 0手続き（2021年）→24手続き（2025年） ・ オンライン手続き登録数（LoGoフォーム） 0件（2021年）→200件（2025年）	※必ず縮小・廃止時期を記載すること ・ （R 7）前年度を踏まえ改善 ・ （R 8）前年度を踏まえ改善 ・ （R 9）縮小

【R6年度】重点目標の取組・ロジックモデル（行政DX推進[行政DX推進事業]）

ロジックモデル【事業立案時点】



その他（財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について など）

【財源】

- R6スマートシティ戦略推進補助金（共同化事業）補助率1/3
- 地方公共団体のデジタル人材の確保に係る地方財政措置【新規】
特別交付税措置 対象経費に0.7を乗じた額
対象期間 令和7年度まで

【他団体の状況】

- 総務省「自治体DX推進計画第2.2版」
- 総務省「人材育成・確保基本方針策定指針」令和5年12月改定
- AI音声認識会議録システム大阪府、府内19市町村導入、全国600以上
- 大阪府内20市町がLoGoフォームを利用

【R 6 年度】重点目標の取組・評価シート①（行政DX推進[行政DX推進事業]）

■ 中期的にめざす成果に対する達成度

おおむね
達成

- ・ 職員をデジタル人材として育成していくことで、公務のパフォーマンスが向上し、更なる人材をひきつけ優秀な人材確保につながる好循環を図る。
- ・ AIにできることはAIに任せ、職員にしかできない業務に時間を使うことをもって行政サービス向上を図る。
- ・ 各種手続きをオンラインからできるように取り組み、デジタル化による利便性の向上を市民が享受できることを目指す。

■ R 6 年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）

達成

- ・ DX人材育成レベル1 研修全職員、レベル2 研修100名、管理職研修を実施する。
- ・ 生成AIサービスの利活用ガイドラインを作成し、注意事項と利活用補法を周知する、LoGoフォームデジタル窓口オプションを導入し、作業部会を設置し申込等のオンライン化を推進する。

■ R 6 年度において実施・実現できたこと

- ・ DX人材育成研修レベル1 全職員、レベル2 研修100名、管理職研修を実施
- ・ AI音声認識会議録システムを導入
- ・ 生成AIサービスを導入、生成AI利活用ガイドラインを策定し注意事項と利活用方法を周知
- ・ 行政手続きのオンライン化作業部会でオンライン化作業を伴走支援
- ・ 職員採用試験申込、粗大ごみ申込、企業版ふるさと納税、犬の登録死亡届等をオンライン化実施
- ・ BPR作業部会で障害者支援課、介護保険課の業務量分析、改善策検討
- ・ RPA作業部会でRPA導入課の新シナリオ検討、作成を伴走支援
- ・ 窓口業務改革作業部会で窓口利用体験調査を実施し、課題を整理したうえで改善策を検討し、めざすべき新しい窓口像を作成

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指 標 名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R 6 年度実績値
○	DX人材研修レベル2 修了者	人	0（2023年）	100（2024年）	84
○	オンライン申請が可能な事務手続き数（ぴったりサービス）	件	0（2021年）	24（2025年）	26
○	オンライン手続き登録数（LoGoフォーム登録フォーム数）	件	0（2021年）	200（2025年）	1,780 （全フォーム数）

【R 6 年度】重点目標の取組・評価シート②（行政DX推進[行政DX推進事業]）

■ R 6 年度において実施・実現できなかったこと

- 予定通り実施した。

■ 課題分析

- 取組む部署と取り組んでいない、取り組まない部署と温度差がある。

■ ロジックモデルの振り返り

- DX人材育成は順調にスタートできているが、【中間アウトカム】の「さらなる人材をひきつける」は、他の要因で成果がでなくなる可能性があると思慮する。

■ 次年度以降の予定・改善内容

- 引き続き外部デジタル専門人材の支援を活用しつつ、各作業部会にて窓口業務改革やBPRなどに取り組む。